

第8回 第5次門真市学校適正配置審議会 議事録

開催日時 令和7年3月11日（火） 午後7時～午後9時

開催場所 門真市役所本館2階大会議室

出席者 新谷 龍太朗、西 孝一郎、横山 俊祐、吉岡 眞知子、川村 早余子、小阪 和之、後藤 忠夫、船越 叔美、山田 颯、植原 宏仁、脊戸 利子、邨橋 雅広

事務局 八木下教育長、水野教育部長、大倉教育部次長、渡辺教育企画課長、高岡教育総務課長、高山学校教育課長、宮崎教育企画課課長補佐、古川教育企画課兼学校教育課副参事、藤澤教育企画課主任、奥本教育企画課主査

傍聴者 0名

議 事

○開催 事務局

定刻となりましたので、第8回門真市学校適正配置審議会を開催いたします。

本日はご多忙の中にも関わらずご出席頂きありがとうございます。本日、司会を務めます、教育部教育企画課の奥本と申します。宜しくお願いいたします。

本日は、18名中12名がご出席されており、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

本日、本田委員、勝川委員、藤田委員、岡本委員、平生委員はご都合がつかず、欠席となっております。また、日置委員につきましては遅れてこられることになっています。

次に、お手元の資料の確認をしたいと思います。

- 1点目 会議次第
- 2点目 資料1 第7回審議会のふりかえり
- 3点目 資料2 答申（案）
- 4点目 資料3 答申案（資料編）
- 5点目 資料4 新旧対照表

です。

過不足ございませんでしょうか。

それでは、本日の以降の進行は、会長にお願いしたいと思います。会長よろしくお願ひいたします。

会長

皆さんこんばんは。遅い時間の開催となりましたが、これが最後の会議となります。

本日は最終的な答申書をまとめあげて、教育委員会にお渡しするという最後の会議になりますので、どうぞよろしくお願いします。

では、早速ですが議事次第に従いまして検討を進めていきたいと思います。

まず最初に、第7回の審議会のふりかえりをしていただきます。資料1をご覧くださいになりながら事務局より説明をお願いします。

事務局

案件1.「第7回審議会のふりかえり」について説明をさせていただきます。

資料1をご覧ください。

まず、今回は答申案と資料編をご確認ののち、答申案の具体的提言について検討を進めました。その中で委員の皆様からいただいた意見を参考に修正させていただいたものを中心にふりかえりとして載せさせていただいております。どう修正したいのかの文言についてはのちほど、改めてお伝えさせていただきます。

それでは、まず、資料編も含めた答申全体についてでございます。

まず、目次の箇所のタイトルでございます。

「今と将来両方の学校のこれから」という文言の将来とこれからの同義ということのご指摘をいただきましたので、上記の意見を踏まえ、「今と将来両方の学校再編に向けて」に変更をしています。

続いて、令和の日本型学校教育を受けて、門真としてどのように子どもを育てていくのか具体的な情報を書いた方がよいのではないかというご意見についてはP.3に門真市での取組みを追記しました。のちほど、文言については説明いたします。なお、作成しておりますので、適正配置審議会としての答申でございますので、基本的には、議論した内容やご説明した内容なるべく記載したいと考えております。

今後答申を受けて教育委員会として策定する「実施方針」や地域への説明会等にて、より具体的に取り組んでいること等についてもお伝えしていきたいと考えております。

次に、資料編についてです。

委員名簿の一部に誤りがありましたので、ご指摘いただいた箇所について修正しております。申し訳ありませんでした。

続いて、ここからは、具体的提言の内容になります。

市内中央を維持していくというのがわかるが、「市民の利便性」という文言をもう少しわかりやすく具体的に書かれた方がよいのではないかという旨のご意見をいただきました。こちらについても文章を修正しております。

右面は、いずれもP.18の留意事項についてでございます。こちらはご指摘いただいた箇所について文言を追記または修正しておりますので、またのちほど説明いたします。

次のページです。

続いて、具体的提言のエリアごとの内容に入っていきます。

まず、北東エリアです。

こちらは、再編案については、特段ご意見がなかったかと思いますが、北西エリアでは163号線より南については、再編後、通学先の学校を選べるような記載があるが、こちらの北東エリアは、上野口敷地に建てる統合小学校と（仮称）四宮・北巢本統合小学校を選べる余地はないのかという旨のご意見でした。こちらは、会長の方から、この提言は1つの原案であり、地域等の声や考え方を聴いて、若干替わってくることはあり得るという旨のご意見をいただきました。教育委員会事務局としても同様の考えでございますので、一旦は、原案通りの記載で行かせていただきたいと思います。

続いて、右面の南西エリアでございます。南西エリアでは、五月田小と沖小学校を統合して、沖小学校敷地だという案をご提示しましたが、五月田小学校をそのまま活用し、将来的に校舎はそのまま、施設分離型の小中一貫校についてはどうか。それなら、新たな校舎を建てる必要なく、一貫教育をより一層に進めていけるのではという旨のご意見をいただきました。こちらのご意見については、費用やスピード感といった面で非常にメリットがあると思います。

一方で、施設一体型という同じ空間でまた、多様な学びに対応できる校舎で、門真のめざす教育をという思いもでございますので、この点については、会長から提案ありましたように、小学校の統合場所や、施設一体型については、記載しないような内容に修正をしております。

最後のページです。

北西エリアです。こちらはWSにて3グループとも同一の案であったこともあり、特に再編案自体についてはご意見等なかったかと思いますが。

1点、門真小と速見小学校の再編に伴い、163号線でエリアを分ける際、第三中学校を廃止、門真はすはな中学校の校区とするような記載をしておりましたが、「廃止」という文言をもう少し柔らかくといったご意見をいただきましたので、門真はすはな中と第三中学校を統合するといった文言に修正をしております。

続いて南東エリアです。南東エリアも再編の案自体にはご意見は特にございませんでした。1点、義務教育学校という文言が一般の方が見られた際、理解することが難しいのではないかというご意見等がございましたので、その点、修正をしております。

最後に、エリア全体についてでございます。まず、子どもの数でみると北東エリアが一番最初ではなく、南西エリアではないかという旨のご意見についてですが、こちらについては、どちらのエリアについてもスピード感をもって南西エリアについても再編に向け、整備を進めていきますので、前回の案通りの順でいかせていただきたいと思いますと考えております。

なお、具体的な優先順位や例えば同時並行でいった点については、諸条件や体制・予算面などもございます。つきましては、こちらについては、教育委員会として出します「実施方針」等にて、記載していけたらと考えております。

最後に、図の情報が多いとのご指摘をいただいた点についても、アドバイスいただきましたとおりに修正をしております。

ふりかえりについては、以上でございます。

会長

はい、ありがとうございました。

前回の第7回の会議では、主に、この答申書の原案がありましたので、その原案に対して、色んなご意見を出していただくという進め方をしました。

その中で、前半部分の内容に関してのご意見、それから後半の具体的な地域分けに関してのご意見等、色々出していただき、いただいたものを教育委員会の方でまとめていただいて、答申書もそれに沿った形で、修正がおおむねできていると思います。今日、ご説明があったように、それぞれ文言の修正等も、できているという風に思いますが、いかがでしょうか。

前回のふりかえりですので、それに関してはこの通りで良いのではないかと思います、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。では、前回のふりかえりはご確認いただいたということで次に本日のメインの仕事ですけれども、ふりかえりを経て修正された最終的な方針、まだ案の段階だと思うのですけれども、これについて具体的にどこをどう修正したのかということについて、先ほどのふりかえりの話を踏まえながらご説明いただき、それをお聞きいただいて、さらに修正すべき点があればこの後、もう一度最終的な確認をして、それで、答申案としてまとめあげたいと思いますので、よろしくお願いします。事務局からご説明をお願いします。

事務局

教育企画課の古川です。私から、今、奥本のほうが説明しました前回の審議会にて、皆様からご意見いただき修正しました箇所について、重複するのですけれども、もう少し内容を具体的にご説明をさせていただけたらと思っております。お手元に資料4と書かれた資料をご用意いただけたらと思っております。また必要に応じて方針案であったり、資料編であったりも、ご覧いただきながらご確認いただけますとありがたいです。まず答申からで、1つめが、目次の4番のタイトルについてでございます。「将来」と「これから」が同じ意味であるとのこと指摘いただきましたので、「今と将来両方の学校再編に向けて」という文言に修正をしております。

続いて2つめです。答申案ですが、P.3の令和の日本型学校教育の箇所でございます。こちらは、もう少し門真でやっていることを載せてはどうかというご意見もありましたので、門真市では、この実現に向け、「子ども主体の学び」、「探究的な学び」の充実に取り組んでいます。という文言を追記しております。令和の日本型学校教育のより詳細な取り組みについては、教育委員会として策定します実施方針等で触れていけたらと考えております。

続いて3つめです。3つめは、P3～P4ページの門真のめざす教育の箇所です。こちらについての記載をもう少し、増やした方が良くとのこと意見をいただきましたので、第5回審議会でも説明しました児童生徒数に比べ、学校数が多い状況である課題について触れ、その中で、多様な人との「つながり」の大切さについて追記しております。そして、まとめとして、「子どもたちが共同的な学びの中

で多様な人とのつながり、予測困難と言われる時代を切り拓く力をつけることができるよう、門真のめざす教育・令和の日本型学校教育の実現をめざして取り組んでいきます。」という文言も追記し、令和の日本型学校教育と門真のめざす教育との関連について述べさせていただく形でまとめております。

続いて、具体的提言の各エリアに行く前に、その他の修正箇所について先に説明させていただきます。

4つめがP.14の(1) エリア分けを行う上での考え方と優先順位の考え方についての箇所です。市内中央を維持していくというのがわかるが、「市民の利便性」という文言をもう少しわかりやすく具体的に書かれた方がよいのではないかとこの旨のご意見をいただきました。このようなご意見を受けまして、児童生徒の通学距離の増加を最小限に抑えることが可能です。また、地域コミュニティ等との連携・協力やアクセシビリティこれは利用しやすさとか、みんなが使いやすいとかいう意味です。こちらも確保できると考えました。という文言に修正をしております。

続いて5つ目です。具体的提言のところを飛ばしてP.19の留意事項の方から行きたいと思います。こちらが、資料2で前回載せている基本情報の中学校区の基本情報で、うちの校区の方が先ではないかというご意見もいただきました。そのようなご意見も踏まえ、「エリアごとに再編・整備を進めるのではなく、必要に応じて、例えば同時並行的に再編・整備を行うなど」といった文言を追加しております。従いまして、まずは「北東エリア」だけ整備をして、次は、と行くのではなく、複数エリアで同時並行的に再編・整備を進めていくこともあるということでございます。

そして、柔軟性やスピード感をもって学校再編を進めていくのはよいが、「大きく方針が変わらないか心配」でもあるので、基本的には今後の実施方針等もこの答申の具体的提言の考え方から大きくずれないようにしてほしいとの旨のご意見がございました。このようなご意見ございましたので、P.19の(1) 具体的提言の実現に向けた速やかな実施方針等の作成の箇所でございますが、「本答申の具体的提言をもとに」という文言を追記させていただいております。

続いて6つめです。こちらがP.19の留意事項でございます。こちらは、委員から「タイミング」という文言を「時期」に変更していただきたいというアドバイスをいただきましたので、そのように修正しております。

続いて、7つ目です。こちらは地域コミュニティについて書いている箇所ですが、ここに委員からアドバイスいただきましたとおり。「防災」を追加しています。

続いて、資料3の資料編でございます。こちらについては名簿について、記載通り修正をしております。失礼いたしました。

3ページ目からは具体的な4エリアについての修正事項でございます。こちらでも、この新旧の対照表と答申案を必要に応じてご覧になりながら、ご確認いただけますとありがたいです。

まず、P.15の北東エリアでございます。

こちらについては、前回の原案どおりという形にしております。

続いて。P16の南西エリアでございます。こちらについては、答申の四角囲みしている箇所の①～④の4つ、すべての文言を前回から修正しております。

まず、「①五月田小学校を沖小学校に統合する。」については、沖小学校に行くのか、五月田小学校に沖小学校が行くのかについては、本答申では記載しないとの方向に前回なったかと思しますので、「①五月田小学校と沖小学校を統合する。」としております。

続いて「②第二中学校と第七中学校を統合する。なお校舎については、五月田小学校または第七中学校の校舎を活用する。」についても、①との兼ね合いがありますので、「②第二中学校と第七中学校を統合する。」としております。

続いて③については、これも①の兼ね合いから、委員にアドバイスいただいた箇所かと思いますが、こちらは、統合小学校・統合中学校という文言に変更しています。

④です。④については、施設一体型以外の選択肢についても表現可能な「施設一体型も含めた小・中学校」という文言に変更しています。

最後のページです。

P.17の北西エリアでございます。こちらは「廃校」という文言をもう少し、マイルドに…というご意見だったかと思えます。こちらについては四角囲み③の「廃止」という文言を改め、「統合」という文言を使う形に変更しております。

エリアについては、最後となるP.18の南東エリアです。こちらは、再編の内容についてではなく、「義務教育学校」という文言が難しいのではないかと、それであれば、「小中一貫校（義務教育学校）」としては、注釈をつけたらよいのではとアドバイスをいただきましたので、小中一貫校（義務教育学校）という言い回しに変更し、注釈もつけさせていただいております。

最後にエリア全体についてでございます。こちらについては、具体的提言の図についていただいた意見でございますが、該当エリア以外の学校情報については、校名以外は削除し、見やすくなるように修正をいたしました。

以上が前回のご意見をもとに修正した箇所でございます。

会長

はい、ありがとうございました。

以上のような修正ということですが、皆さん、ご自身でおっしゃった意見はきちんと反映されているかどうかとかあるいは、ほかの方のご意見等、なお改めて、今読んで少し気になるとか、何かあればおっしゃっていただいて、と思いますがいかがでしょうか。

委員

統廃合するのを単に市の都合でくっつければ良いという風に受け取られないために「これからの教育を進めるための施設として」というのを入れた方がいいのではないかと、いつも言ってるんですが、確かにおっしゃるとおり、それを入れることによって量が増えたりとか、余計分かりにくくするというのはあると思うんですね。それで後で少しだけお話させていただきたいんですけども、第4次の適正配置審議会答申で示された結果を検討するというより積極的に変えていくの

がいいのかなと思います。中身を見据えた上で変更するとのニュアンスを加えた方がいいと思います。

会長

今おっしゃったのは、前半部分というのは、なぜ、統廃合が必要かということに関して、例えば今まで議論したP. 3、P. 4あたりですね、子どもの数の上限ということは、後半になりますが、前半に令和の日本型教育とか、めざす教育などこれを実現するには、やはり学校再編が必要だというような文脈にはなっていると思います。

委員

それをもう少し、門真市では色んな教育的な改革を進めていこうとされていることを書き込んだ方がいいのではないかなということです。それが量的に難しいであるとか読みづらいということであれば、一向に構わないのですが、その話だけを後で少しお話しできたらというのと、第4次を中心に進めていくとなっているのですが、これは令和2年に決まったものなので、今から10年先、20年先を見た上での統廃合ということを考えてときに、何かもう少し突っ込んだ積極的な意味合いの言葉に、僕は変えておいた方がいいのかなという風に思いました。

会長

そういう意味では第4次の答申では、少し短期的なスパンで学校再編等を行う提言をして、四宮と北巢本の統廃合というのはその時に出されたものでもう既にそれはほぼ実現できているという状態になりました。それを踏まえつつ、今回はもう少し長期的なビジョンに立って、それからさらに市全体をとらえて、今後の学校再編をどうしていくかということを提言していますので、そういう意味では、4次をそのままトレースして発展させたというよりも、第5次というのは4次を踏まえつつも、先ほど申し上げたように長期的、全市域的な視野で、学校再編を将来に向けてどうしていくかというのを考えていくというところでそれは4次のトレースとは少し違うのではないかなと思いますが、書き方が弱いということですか。

委員

ちょっと弱いと思います。

会長

書き方が弱いということですね例えば積極的にであるとかそういうことですか。

委員

積極的とか、新しい教育の考え方とか、例えば前も言いましたようにバカロレア教育というのもすでに文科省の方でいっぱい出しているの、そういうな

ことも踏まえて新しい教育の方向性みたいなものを出したほうがいいのかと思います。

会長

ちょっとバカロレアとか言い出すと、これは学校制度の話になるので、学校再編とは少し毛色が違うかなという気もするので、そういうことも、実施方針の中では検討があるかもしれませんが、ここでそこまではやや飛躍かなという気がしますので、そういった議論があったというのはきちんと記録にとどめておいていただきたいと思います。いかがですか。

委員

それで良いです。

会長

それで追加で言えば、第4次の審議会で出されたのはやはりつながりという話でした。それが要するに今までの数合わせではなくて、縦・横・将来へのつながりというのをどう実現するかというそれが門真のめざす教育である。それを発展させるにはどうしたら良いのかというのは、第5次でもきちんと受け継いでいるところで、方向としては少し4次と5次ではだいぶ変わってきているというのでいかがですか。

もう少し前向きに例えばP. 3の(2)とかをもう少し強調していただくということになりますかね。

今、修正するわけにはいかないの、ここはお任せするという事でよろしいですか。

委員

はい。

会長

はい、ありがとうございます。

委員

P. 1とP. 3の第4次の4が漢数字と数字の4が混在しているので統一した方がいいのかなと思います。

会長

本当ですね。第4次の際はどちらにしていたんですか。

事務局

漢数字にしていたのではないかなという気はしています。

会長

確認して修正しておいてください。

会長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委員

P. 4 も第 4 次のことがあるので、先ほどのご指摘箇所以外も探されて統一された方がいいのかなと思います。

後、目次の 4 の「今と将来の両方の学校のこれから」を「今と将来の両方の学校再編に向けて」に修正されていると思いますが、何となく両方という言葉が気になるので、例えば「将来を見据えた学校再編に向けて」とかの言葉の方が答申ぽいのではないかと思います。

委員

両方というのが題名の中ではすっきりいかないですね。感じはわかるんですけども。

会長

そうですね。どういった言葉がいいですか。

委員

私は「将来を見据えた学校再編に向けて」とかの言葉がいいのかなと思います。

会長

いかがですか皆さん。では、「将来を見据えた学校再編に向けて」で行きたいと思います。

第 5 次は将来を非常に意識しながら行っているという意味で、「将来を見据えた」というのが適格なタイトルだと思います。「見据えた」は漢字がいいと思いますか。

委員

漢字がいいと思います。

会長

では、「見据えた」は漢字をお願いします。

委員

先ほど委員がおっしゃった教育をもう少し具体的に P. 3 とかでおっしゃっていたんですが、P. 4 で「門真のめざす教育」というのが書いてあって、ここ

に具体的に「つながり」の部分であるとかの記載があるので、もし付け足すのであればこのP. 4に入れるのはいいのではないかなと思いました。

副会長

P. 19の具体的提言の複数のエリアで「同時並行的に」というところがとても良い表現だなという風に思いました。実際にはこういった形で行われる形になるのだろかなと思いました。「同時並行的」にか「同時進行的」というのがどういった表現がいいのかなと思いました。意図は非常に良くわかりました。

先日私は兵庫県の部活動の地域移行の審議会に出ていまして、ここでも話題になっていたのが複数の中学校で部活動を一緒にやらないと成り立たないとなっているんですね。

門真で今考えられているエリア制であったりとか、ひょっとするとブロック制であるかをやっていくというのが部活動をやっていく上で必要になってくると思います。

会長

それは文章としてはどこかに記載する必要がある。

副会長

特に必要はないと思いますが、こういったエリアでやっていこうと思っている時に今後部活動の地域移行の人材を求めるときにこの中学校区で人材を集めるではなくて、ブロックであったり、エリアの中で人材を集めることが可能になりますし、複数中学校でも部活動ということも可能であるし、それから中央に集まってくるということによってさらに将来の部活動の推進とか地域活動など、そういった違う視点から見ても、新しいエリア分けは有効になると思います。

会長

最初におっしゃった「同時並行」か「同時進行」かと言うのは、どちらにしますか。

副会長

「同時並行」で意味はわかりますが。

委員

「同時並行」は同じスピードで物事を進めていくイメージですが、「同時進行」は多少スピードに差があるのかなというイメージはあります。

会長

「的」をつけると「同時進行的」とはあまり使わないですね。

委員

複数のエリアで「同時に再編整備を検討するなど適正な～」など「的」を取った表現とすれば良いのではないか。「進行」という言葉も入れない。

会長

そうした方がわかりやすいですね。皆さんいかがですか。

委員

それが良いと思います。

委員

すみません。P. 5 のところの異年齢や異学年、また、大人も含めた様々な年齢の人との関わりをつくる「縦のつながり」や同学年、同級生、また、学校を超えた同年齢の子どもどうしの関わりや、地域の人や保護者との関わりとありますね。上に記載されている「縦のつながり」の中で大人も含めたさまざまな年齢の人との関わりというのが、地域の人や保護者かなと私は思い読み進めたら下にそれが出てくるので何か違いがあって書かれたのか「縦のつながり」の大人たちのイメージと「横のつながり」の大人のイメージが別なのかなとこの文書を読んで思いました。年齢の違いを見ようとしているのか。地域的な「横のつながり」の設定のイメージですね。それが曖昧かなと思いました。異年齢的な意味か、環境的なつながりが曖昧に見えるので、何か違いを持って書かれているとしたら何か言葉を足したほうがいいかなとおもいました。

委員

今おっしゃっていたところは言葉を区切っていけないといけないと思います。「縦のつながりや」で区切る必要があると思います。そこで文意が変わるので、異年齢や異学年、また、大人も含めた様々な年齢の人の関わりが「縦」。同学年、同級生、学校を超えた同年齢の子どもどうしの関わりや、地域の人や保護者との関わりが「横」の話なので。

会長

私の理解を言うと、「縦」は年齢で、「横」は空間的なイメージで地域というのはちょうど右上角くらいなので年齢で言っても、異年齢となりますし、「横のつながり」で言っても1番外側には地域があってそれで地域という言葉が両方に使われているという地域とか保護者は考えたいという意味なのですが、それが少しわかりにくさになっているような気がします。

委員

少し意味がわからなくて、文章にしたら少し矛盾に見えたりするので、先生が今おっしゃったような何かを入れると変わるかもしれないですね。

委員

一時期「斜めの」も使われていたと思いますが、今はあまり使わないのですか。

会長

「縦・横・斜め」ので行くと、地域は「斜め」なのです。ただ「斜め」のつながりって少しかっこ悪くないですか。

委員

大人も含めた様々な年齢の人との関わりということで広がっているような気がするのでこの「縦のつながり」は様々な年齢によるということですね。

会長

そうです。「縦」は年齢です。

委員

年齢に応じた上下関係みたいな感じですか。

会長

そういったことでいいですよ。

委員

そういった形に書き換えてもらうといいのではないかなと思います。

委員

異年齢というのは学年の中にも差がありますし、学年を超えてくるともう少し幅が広がって、そういうふうに感覚的に見て行くと、大人も含めたがないほうがいいのではないかなと思います。いろんな人がいて色んな年齢の人とかかわる場面を大事にしていきたいが、上下関係を強調しない方が良いかと思います。

会長

「縦」と言えば当然大人もありますから。

委員

大人も含めたと言葉が重なってしまうのではないかな。縦は、年齢の幅も意味しているとする。

会長

右上角にいる大人たちを要は両方で説明しているという形になっている。

委員

言わんとすることは私もわかります。

事務局

第4次の審議会でつながりという議論をしたときに、「縦のつながり」「横のつながり」というワードが出てきて審議会の中でも、確かに先ほどから議論になっているような「斜めのつながり」ってあるよねという話題になりました。当時出席されている方は覚えがあるかもしれないですが、その議論の際、縦・横という二次元の世界ではなくてそれを丸にして斜めもあるし、縦に近い横もあるし、色んなところを総称して「縦・横」って考えないといけないよねという中で円で表現したところでした。ここの記載は、第4次の答申の最終のまとめの「縦のつながり」の定義と「横のつながり」の定義もそのまま記載をしたという形になりますので、「縦のつながり」というところだけで行くと、大人も含めた様々な年齢の関わりですね。「横のつながり」という関係で行くと、地域も含めて考えられますよねとそこは成立しているんですが、文章を1つにしたことで、そこが結局どう見たらいいのかというのが分かりにくくなったということなのかなと思いますので、縦横の考え方自体は4次のときにこの会議で何度も議論いただいて、ある程度こういった概念じゃないかというところは整理をしたところなので、それをここでどう書くのが分かりやすいかなというところは少し見直したらいいのかなというふうに思っています。皆様議論いただいたとおりのイメージは斜めもあるし、縦と横の考え方が違うということもあるのですが、それを一つの文章としてしまったので少し分かりにくくなったのかなと思いました。

副会長

少し感じが違うかもしれませんが、社会に開かれている場合に使われる社会という言葉があって、社会と地域とは違うんだということは今地域に開かれた教育課程と言っていますが、その観点で、明確に文科省が示していて、よりよい社会を作っていくということは、空間的な社会、今で言えば「横のつながり」の方の社会、それからもう一つはこれからの社会を作っていくという時間軸の社会、僕らが子どものときにそんなだったら、社会に出てから困るぞと言われた方の社会です。こちらの方の「縦のつながり」時間軸の方の社会が「縦のつながり」かなと地域というよりもこの文書の中で「つながり」ということを門真では考えてきたと思うんですが、時間軸の社会と空間軸の社会とこういう二つの社会があるんだということで「縦のつながり」と「横のつながり」があるんだというそういう見方もあるのでそこを意識できると、今の社会の開かれた教育課程ということとを理由としているので良いかなと思います。

委員

一文がすごく長いので、今言われたように「縦のつながり」としての概念と「横のつながり」の概念を分けてというか文章を分けて書いていくと、もう少し分かりやすいと思います。一文がこれかなり長いと思います。言いたいことは分かるのですが。

会長

ブラッシュアップしていただいくということで。

他いかがでしょうか。
委員いかがでしょうか。

委員
私は何か見つけることができていないです。

会長
何かないですか。

委員
そうですね。

会長
ありがとうございます。
では、他になければ今日のご意見も踏まえて、最終的な修正はかけていただき、答申案から今日の議論を踏まえた上での答申へ変えていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

委員
はい

会長
他にご意見がないということなので、答申案から正式な答申としていただいて皆様にご確認いただいたという形にしたいと思います。修正箇所は直ちに修正できないので、改めて最終的な修正したものを最後の答申としたいと思います。本日私も答申書を教育委員会に渡すのがこれから今から行うのが手交というみたいですが、手渡したいと思いますので、事務局の方で準備をお願いします。

《手交の準備》

会長
答申書門真市教育委員会教育長八木下理香子様。
門真市学校適正配置審議会門真のめざす教育の実現に向けた今と将来の学校づくりについて令和5年11月24日付門教企第477号にて、門真市教育員会教育長から諮問がありました門真市学校適正配置審議会第4次答申以降の門真市立学校のあり方について、ここに答申いたします。よろしくお願いします。

教育長
ありがとうございました。

会長

第8回まで長い期間、一昨年の11月からなので、1年数か月の間は、本当に皆さん真摯なご議論をしていただいて、立派な答申書ができたと思います。ありがとうございました。

事務局ではこの答申書を基にして実施方針というのをお作りになるということです。早急にそれを作りいただいて、私どもの提言をきちんと踏まえて、スピード感を持って実行できるような、それから地域の方、最初に委員がおっしゃったようにみんなが納得できる学校再編になるようにこれから進めていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

最後になりましたので、少し皆さん方、この会議を振り返っていただきたいと思います。せっかくこういう機会も最初で最後になりますので答申書の内容であるとかあるいはこれから門真市の学校をどうしていきたいかビジョンなど、様々な思いがおりだしますので、お一人ずつご発言をお願いしたいと思います。

委員

長い間、色々お世話になりました。私もこういった委員会も出させていただいた機会があるのですが、横山先生の司会のもと、我々と教育委員会の方々が何か意見の交換というか、十分意見を出し合える形式的な会議ではなくて、十分に出し合える会議であったなということで私自身も勉強になりましたし、何か門真がどんどん門真がこういう雰囲気が変わっていくのではないかなといったことを感じさせていただきました。ありがとうございました。

委員

すみません。しつこいと思われるかもしれませんが、統廃合を行う時にビジョンとしてやはり私は色々発言させていただいたのですが、どうしてもスポット・スポットの発言になってしまいますので、今日まとめてお話しさせていただければと思っています。

私、幼児教育していますのでそちらの方から見ていった教育についてということでお話しさせていただきたいと思います。まず最初に門真市の教育、これから先の教育について私自身が考えているのは、水桜学園の希望者入学を認める。水桜学園のように教育方法を変えていこうという先生を集めて、特徴のある色々な考えを活かせるような学校を作っていくというのも一つの案かなと思います。そういう意味では、転属を希望される先生をできるだけそこに集めていくというふうなこともあるかと思います。各学校の特徴を出して保護者の方が学校を選べるようにしていく、最終的には校区制の廃止というようなところまでいけば本当に我が子をどういった形で学ばせて行きたいかというように考えられると思っています。先ほど西先生がおっしゃっていたところも、行き着くところはそこなんじゃないかと思いました。それとあと、就学猶予や自主留年を認める制度をぜひやっていただきたいなと思っています。うちの園でも、このまま小学校に上げるのは少しかわいそうかなというふうな子どもたちもやはりいますし、この学年でやっていることがよくわからないので、もう一度やりたいという子どもも中には

居ているので、そういう意味では発達に応じた学びができるようなシステムがあればいいと思います。

保護者への学びの環境を。これは教育長さんが昨年3月に出していただいたように、学校での教育をもっと保護者に知っていただくということがすごく大事だと思うので、もっと進めていただけたらなと思っています。なぜかと言うと、実際色んな形新しい教育のやり方を進めて行ったとき保護者の方がそれを支えてくれるかどうかというのは、すごく大事なのです。新しいことをすると「何をやってるんですか」と否定的に言われてしまうと、新しい考え方の教育を進めることができない。こういったことをやっていますというのを市の広報を通じて繰返し伝えていくとか、あるいは各学校が今こういったことをやっていますよというのを広報の中にコーナーを作って紹介していくとか、そういったこともあってもいいかなと思っています。

学習の仕方としてはプロジェクト型の学習をぜひ最終の目標にしていきたいと思います。ただこれは今すぐやれとか何年先にこれということではなく、やはり一人一人が考えていることが実現できるような教育という意味で考えていった時にはプロジェクト型の教育に行き着くのかなと思います。

それと子どもたちは色んなところでつまずいているんですけども、そのつまずきをチェックするようなシステムを持っていないのですね。今の学力テストというのは知識の量をチェックするようなテストなので、広島県で使われた「たつじんテスト」を実施して、色んなところでのつまずきを調べることがあっていいかなと思います。どの単元をどの部分をどういったふうに丁寧に理解できるように説明していけばいいのかなど把握できるかもしれません。どこかでつまずいていたらそこから先に進めないですよ。その子に合わせて、つまずいているところを子どもに合わせて見ていってあげられるような教育になればいいかなと思います。

幼児教育の中で、デイヴィッドエルカインド「せかされる子どもたち」という本の中で、早期教育は子どもたちにとっては良くないということを述べています。年齢に応じたその時期その時期の発達に応じた教育を丁寧にやっていただきたいということを言っておられる人なのですが、その人が教育学者のジョン・デューイの言葉を紹介されています。「迷うとは経験したことを考え、言葉に表すことだ」と紹介し、試行錯誤の重要性を言っておられます。

さらに、情報を得るといった体験だけからは、やはり何も得られない。それを自分のものとしていく「考える時間」や、あるいは「自分の経験について考える時間」というのが必要なだろうとおっしゃっています。そういう意味では、生活の中で「挨拶しなさい」と言われ言われたことをやっているだけではなくて、なぜ挨拶をしなければいけないのか、お互いが生活していく中で気持ちよく過ごすためにといったところまで理解できるように説明してあげるということが必要だろうなと思います。

今、学校教育に関する色んな問題が出ています。新聞記事、社会的に出ているニュースです。令和5年の報告で子どもの自殺が2年連続で500人超、中学校で増えていて、動機は学校の中の事です。

あと、不登校の問題です。体調不良などの要因が保護者の認識と先生の認識が大きく違うということが報告されています。

それと子どもの暴力ですけども、23年度校内で10万件超発生しており、言語能力が低く思いを整理できない子どもが暴力に走っていくということが報告されていました。ここで注意してほしいのが、今少子化が進んでいますよね。子どもたちが減っていますよね、でもどうしてこういう問題だけ増えているのでしょうか。やはり少し子どもたちの生活条件が変わっていつているのではないかなと、ものすごく思います。

それとケーキの切れない非行少年たちという本が出ていますけれども、丸のケーキを3人で割る時に縦に切ってしまうととか、横に切ってしまうとかいう子どもたちなんですけど、この本を書かれた宮口さんという方が形の認識がきちんとできていないということに問題があるんだらうということで、認知のトレーニングで絵を書いたりとか言葉を返した時にすぐに反応するトレーニングをするとそこが修正されるということを報告されています。その経験をした非行少年たちは認知トレーニングをすごくそれを楽しみにしてやってくれるということは、それまでそういうふうな認知に対する働きかけというのはなかなかされていなかった。ぜひ認知を育てる教育はやっていくべきではないかなと思います。これはすごく簡単なこと幼稚園であれば点つなぎであるとか、形探しであるとか、パズルみたいなものですね。そういうのが実は子どもたちにとってはとても重要だということです。

それと小学校5年生になってアレルギー反応によって亡くなってしまうという事故がありました。私たちからすると小学校5年生でも自分が食べてはいけないものが分からないのか、またそれを周りの人にどうして言えなかったんだらうかと思います。そういう意味では子どもの発達の中で色んなひずみが表れていて、「これがだめ」という自己認知が育っていないかもしれないなと思いました。

また、国連の人権委員会の方から、既に学校教育制度の改変を勧告されています。今までと同じような学校制度では違うんだらうなと思います。

例えば、学力論争を引き起こしたPISAテストで日本で行っていない試験があります。2021年度は創造的思考力ということで、全くないものから新しいものを作っていく思考力がどういう風に育っていくのかという調査がありました。そういったことを考えたときにやはりもう少し、子どもたちの現在の発達を知識から思考力へともっと根本から見ていく必要があるんだらうなというふうに考えています。

私は幼児教育をしているので、子どもたちが主体的に動けることと主体的に動く「遊びが学び」なんだということ、それと子どもたち一人一人に応じた環境を用意してあげてくださいということが要領や指針で求められ、遊びを選べるようにということを、うちの園では考えています。そういうことを考えたときに学校さんがもう少し色んな試みができるように、教育委員会の方で支えていただきたいと思います。前も言いましたように、国際バカロレアプログラムを中学校に広げていきますと文科省が言っているんですね。中学校には学習指導要領があっても、内容に整合性があればバカロレアのプログラムを行っても構わないということです。先ほど言いました新しい学びということを門真市の方でぜひ考えていた

だきたい。まだまだ色んな問題があるとは思いますが、子どもたちが自分で考えていくこと、そしてそれを言葉にしてやっていく時間、そのためには例えば遊ぶという方法が必要かなと思いますので、ぜひその方向で進めていただけたらと思います。すみません長い時間、ありがとうございました。

委員

私はすごく簡単です。子どもに土をいじらせてほしい。20年間門真小学校で畑や田んぼなどを行ってきました。地域とのつながりが希薄化していることもあるので今後もう少し地域とのつながりがあれば良いと思っており、教育員会でも協力してもらえたらいいなと思っています。

委員

ありがとうございました。この会議には昨年4月から参加させていただいたんですけど、わくわくさせていただいて参加させていただきました。

これからの門真がこういう方向でやっていくのかなということも分かりましたし、先ほど話しがありましたが、暴力件数が増えているなどありましたが、そういう状況で先生方が本当に必死になって子どもと向き合っている姿があります。そこをどういうふうに、時間的に物的、人的に余裕をつくっていくか、そのためにはこういう教育があつての再編というのは必須だと思っています。こういったふうに再編しながら浮いてくる予算があると思いますので、ぜひとも教育に入れていただいて、私たち教員にハッパかけていただくと、これだけ予算を使っているので充実した教育をというような教育になっていけばいいなと思いました。ありがとうございました。

委員

門真市に勤めて40年になりますけど、どんどん子どもが増えていった時期に学校が増やされて、次減っていく時にどうするかというこの先を見通した議論がすごく大事なのですが、やはり場当たり的にここ古くて汚いのできれいにすればいいのではなくて、遠い先を見越して、将来ずっと、こういう絵を書くために今こういったふうに段階を踏んでいこうというそういう議論ができたことがとても良かったです。そういう説明を先生方や子どもたちや地域の人、市民の方にも「こういうふうな構想を持ってこういうことを段階的にやっていくのですよ。」というのが言えることがすごく大事ではないかなと思います。今だけを見ているのではなくて、それこそ将来を考えてというのが良かった。これで私も安心して引退できるなと思いました。ありがとうございました。

委員

ありがとうございました。一応PTA代表として参加させていただいて皆さんの一生懸命のお言葉いただいて常に勉強させていただくような会でした。いち保護者として、保護者が少し無責任だなとつくづく感じました。色んな方々のお力をいただいている中で、自分たちの子どもたちが学べる場所があつて、本当に頭が下がるなということで、本当にそういったことを痛感したこの1年半ぐらいでし

た。どうしても我々は皆さんと違って過ぎ去っていただけなので、いずれ関わりがどんどん薄れていくんですが、今回参加させていただいた内容をどうにかして伝えていく場がこれから与えてもらえたらいいなというのは今正直な気持ちです。エリア全てに説明に回るとか難しいですけども、自分が住んでいるエリアからは少しでも何か協力してこういったことをしてきたよというのを伝える、何か担い手でもなれたら少しでも理解を求めるお手伝いができるかなと、今少し前向きに考えています。ありがとうございました。

委員

1年半ありがとうございました。2年前に教育実習のところに行って、校長先生、教育企画の方から色々お誘いを受けて、ぜひ参加してみたいなと思っていましたが、学生ということもあって、どこまで貢献できたかなというところで今日を迎えて、緊張もありながら所々で発言させていただいて本当に勉強になる会だなと思っていました。残念ながら、来年度からは大阪府の教員採用試験落ちてしまったんですけど、千葉県で一応教員をすることになります。千葉県の方でしっかり勉強して大阪府に帰って来る予定なので、また帰ってきた際には、帰ってきてここまでになったんやとか見てみたいですし門真市の教育に関わっていきたいですし色々な場面で大阪府の教育に携われたなと思ってしています。また、どこかでお会いしたら、お声がけさせていただきます。以上です。ありがとうございました。

委員

お役に立てないかなということを感じながら出席させていただいたんですけど、未来のことを考えながら、話をするすごく大変なことだなというのが、全然見えない未知の世界ということもあるので、それをすごく感じました。門真市の未来の子どもたちがよりよい環境で学校生活を送れるようになればいいな、それが望みだということを感じさせていただきました。ありがとうございました。

委員

ありがとうございました。私は皆さんとは逆で、不安感満載です。自分としては本当に人のつながりがどんどん希薄化していつているというのを感じています。ボランティアもしてる中で、本当に子どもたち殴り合うんです。コロナもあったし、色々なことはあったんでしょうけど、やっぱり親の姿勢もそうだし、地域の姿勢もそうだし、学校の先生の姿勢もそうだし、先ほど挨拶など色々話がありましたけど、挨拶なんて基本中の基本でコミュニケーションを取る第一歩が挨拶そのための挨拶ということもわかっていない大人もおれば、大人も分かっていないから子どもにも伝わらない、そういうのがどんどん広がっていく中で、逆に子どもが減るから統合していきます。そうしたら、全然関係のなかったコミュニティがまたくっついていくところでのコミュニケーションの人間関係の構築というのが、まだ子どもたちの方が柔軟にできそうだけど、大人はどうなっていくんだろうかなと思いました。でももし、子どもたちの教育とか何かしらで携わる

ことがあると考えたら、不安でしかないな、逃げ出したいと思った会になりました。

委員

今回の会議に参加させてもらってすごく 30 年先、50 年先の門真の本当の形になるところに参加させてもらって、責任重大だなとある程度固まってしまうので逆にありがとうございますという気持ちと本当に周到に準備頂いた事務局の方のおかげで好きに議論させていただいて、横山会長の本当の巧みな綱さばきで形になったということにも本当に感謝しかありません。先週、3 回生が教員採用試験を受けるということを少し話していましたら、「私二島出身なのです。すごく門真が好きです。」と言っていた生徒がいました。もしかすると将来、一緒に働いていただけるかもしれません。これからは魅力ある門真市を作っていっていただければと思います。ありがとうございました。

副会長

ありがとうございました。第 4 次の時から参加させていただいて、こういった雰囲気の話し合いというのは、本当色んな審議会参加していますけれども、なかなかないんですよね。それは本当に横山会長のおかげだと思っているんですが、みんな意見を出し合ってその上で認めてもらえるとか、そういう雰囲気を作っていただいて本当に感謝しています。それとともにやはり教育委員会の方がそこに意見をもう一步一步と先に進みながら考えられたことについて本当にすばらしいなと思いました。自分の中では想像以上の 1 小 1 中というものすごい大胆な意見が出されて、その中に今回の 4 エリアという解が出てきたと思うので、全く想像していないところから出てきたなというふうな感想を持ちました。最後ですが、「人は人を浴びて人となる」株式会社ニッカの社長さんのことばですが、まさに門真は人のつながりを生かしていくということで、門真の子どもたちがこれからも色んな人を浴びながら本当の人として生きていってくれることを心から望んでいますし、30 年後、50 年後私はいませんが、立派に子どもたちが育ってくれることを望んでいます。ありがとうございました。

会長

最初に実はこの審議会を何をやるかというときに、第 4 次答申以降の門真市の学校のあり方というお題だったんです。全く漠としたところで何をどう議論するのも最初分からない状態から始まって、皆さん方本当に色んな意見を出していただきながらそれに教育委員会は色んな資料を適切にお出し頂いて、それで最終的に何か本当に遠い未来まで、門真の学校はこういったビジョンで成り立って作っていくんだということをここで明言できたということを経験してすごくみんなすごいと思って感心しております。そういう意味で本当に毎回毎回熱き議論を闘わせた、僕は記憶に残っているのはやはりワークショップを 2 回やったのが本当に皆さん方いろんな方に色んな意見を出していただきましたが、何となく方向性一つにまとまってきて、これはすばらしいなと思って拝見しておりました。そういう意味でこの提言というのはぜひ実現に向けて、それから委員もおっしゃったよう

にやはり色々な教育の問題もありますので、そういうことも踏まえながら、ただ学校の形だけくっつけたり、ばらしたりするということだけではなくて、中身がやはり重要だと思います。そういう例えばこのつながりですとか、門真がめざす新しい教育というのをどう実現していくかというのは、統廃合だけではやはり難しいところがあります。中身をきちんと充実させていく新しい取り組みをしていくということが大切になってくるし、そういう中に、特に地域の力というのはこれからますます重要になってくると思います。委員がおっしゃっていたと思いますが、地域が逃げたら駄目です。地域絶対学校に積極的に関わる。

だから今回の答申はもう皆さん早く地域に帰ってPRしてください。ネガティブな話しではなくてポジティブなんですよ。学校がなくなるということはやはり地域にとって一大事なんですどもその先にやはり輝かしい未来があるというふうに皆さん信じていただいて、それで地域に早く持って帰っていただいて議論を始めていただいて、そこからまたよりよい学校を作っていくということを始めて頂きたいと思います。本当に8回、色々な議論をしていただきまして、見事な答申書になったと思います。ありがとうございました。

最後に教育委員会の方からご発言いただければと思います。

事務局

本当に皆様ありがとうございました。本日で第5次学校適正配置審議会は終了ということになります。今お話がありましたとおり、統合イコール学校がなくなっていくというネガティブなワードでもある適正配置審議会なのですが、最初のころからやはり皆様方の課題感であるとか、危機感というのを共有できたのが一つ良かったのかなというふうに思っています。本当に皆様立場も違いますし、それぞれのお考えもある中で、正直なご意見をたくさんいただいて、僕らとしては耳が痛いとかどういう資料にまとめていこうか悩ましい部分もたくさんありましたけれども、皆さんの思いというところはできるだけ反映をしながら受け止めていきたいという思いで、資料づくりをしてきました。横山会長のおかげをもちまして一つの成案としてこの短い期間でまとめていただいたことを本当に感謝しております。私自身もこの審議会という公式な場でワークショップをするというのは初めての経験でして、本当にするのと思ったんですけども、会長の強い思いもありまして、ワークショップ形式でやらせていただきました。少し不謹慎かもしれませんが皆さん楽しそうに議論いただいていたというのがすごく印象的でして、ワークショップをすると本当に話が広がって僕らの立場としたらこれはまとめるのが難しいと心配しながらではあったんですけども、何とか最終形につなげていきたいというところに、僕たちも火がついたということもありました。

今回結果として、大改革の答申になっていると思います。地域の方々もこの議論を経て、この結果にたどり着いたところまで全部ご説明できればある程度、ご理解いただけるかもしれませんが、結果だけを見ると、やはり学校の数がすごく減っていますし、がらっと変わっていて、場合によっては学校が二つに割れたりとかいうことにもなっています。正直な気持ちで言うと、この後どうしようかなとすごく不安にはなっておりますが、今日の皆様の感想も踏まえて不安なところ

と、期待とか今後に向けての前向きな部分も、僕たちは伝えていくのが仕事かなと思っていますので、子どものためにはというのは最低限として、地域の方々、学校にかかわる全ての方々に、良い学校になっていくねと思っていただけるように、これから取り組んでいかないといけないかなということと、色んな課題というか制約は実際ありますが、何度も言葉として出てきたスピード感、これを僕らも肝に銘じて、子どもたちにいい環境をどれだけ早く作ってあげるかということも、この会議の一つの答えとして受け継いで仕事として取り組んでいきたいというふうに思っております。1年半という短い期間でありましたが本当に真摯な議論をいただきまして、本当にありがとうございました。本審議会に参画の皆様は今後も門真市の行政に関わっていただくことがたくさんある方々ばかりだと思いますので引き続きどうぞよろしくお願いします。

会長

皆様ありがとうございました。1年数か月本当に熱い議論を戦わせていただいて答申書が出来上がりました。ありがとうございました。

事務局

本日修正をいただいた意見ですけれども、また皆様に集まっていただくという機会が取れないので、いただいた修正案は会長と一緒に最終形にさせていただきたいと思いますのでよろしいですか。

委員

はい

会長

それでは、ありがとうございました。